

【別紙様式3】

再評価実施事業調書

番号	1	事業名	道路事業		路線又は箇所名等		一般国道409号 富里拡幅		
事業所管課		道路整備課		事業主体			千葉県		
事業化年度	平成11年度	用地着手年度	平成11年度	工事着手年度	平成11年度	工事終了(認可)年度	令和8年度	再評価の理由	再々評価
費用便益比 B/C	3.5 (14.9)	総費用	119億円 (15億円)	総便益	412億円 (219億円)	基準年	令和2年度	供用開始 年度	令和9年度

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

【事業概要】

東関東自動車道の富里インターチェンジに接続する一般国道409号では、交通集中による慢性的な渋滞が発生していることから、交通の円滑化、安全性の向上、物流の効率化等を目的として富里市七栄から成田市並木町までの延長1.9kmの4車線化整備を行う。

- ・総事業費：80.6億円
- ・事業延長：L=1.9km
- ・事業期間：平成11年度～令和8年度

【事業の進捗状況】（令和2年度末見込み）

	全体計画(億円)	投資事業費(億円)	残事業費(億円)	進捗率(%)
全体	81	64	17	79%

【社会経済情勢等】

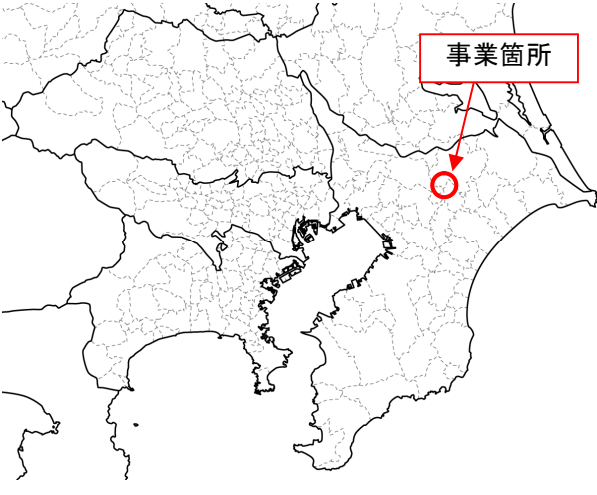
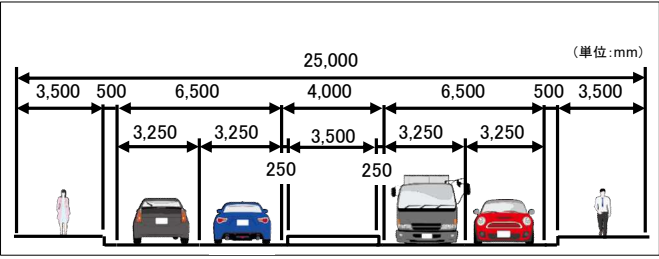
- ・成田市と富里市を結ぶ地域の幹線道路であるが、朝夕を中心に渋滞が発生しており、平均旅行速度は千葉県平均の約半分(13.8km/h)である。
- ・事業区間の死傷事故率の平均は110件/億台kmであり、県内平均の約2.2倍となっている。通学路に指定されている区間があるが、歩道の幅員がせまいため、安全性の確保が必要である。
- ・一般国道409号は富里市内の工業団地等と富里ICを結ぶアクセス道路であるが、渋滞の発生や幅員の狭さによって円滑な物流交通に支障が出ている。

【対応方針(案)】

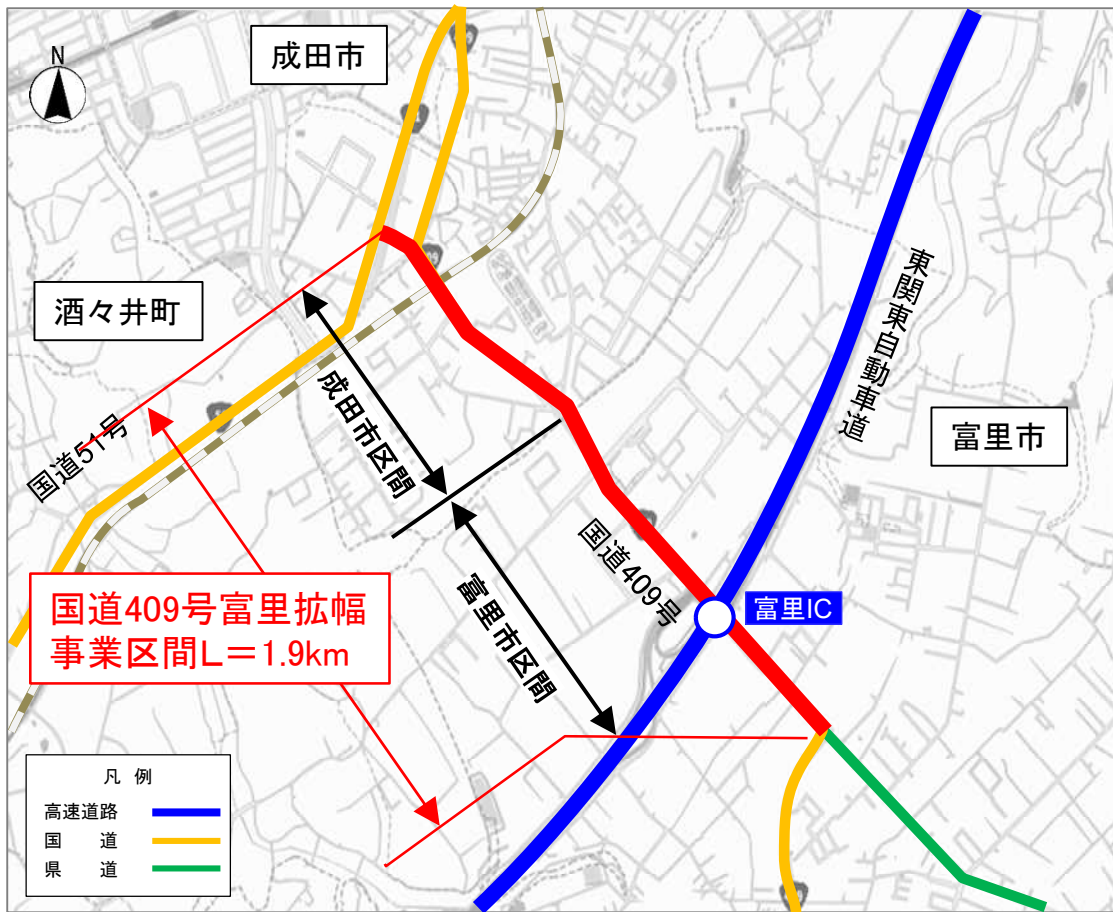
継続

費用便益比(B/C)が事業全体で3.5、残事業で14.9であることから、費用対効果が見込まれる。  
また、交通混雑の緩和による物流の効率化や救急医療への支援、歩道幅員の拡充による歩行者の安全性の向上の整備効果が期待される。  
着実に事業を推進していることから、事業を継続し、効果の早期発現を目指す。

事業概要図

番号	1	事業名	道路事業	路線又は箇所名等	一般国道 409 号 富里拡幅
位置図				標準横断面図	

平面図



【別紙様式 5】

## 再評価事業に関する調書

番 号	1	事 業 名	道路事業	路線又は箇所名等	一般国道 409 号 富里拡幅
事業化年度	平成 11 年度	用地着手年度	平成 11 年度	工事着手年度	平成 11 年度
【再評価（H27 年度）の概要】					
事前評価実施年度 （基準年）	平成 27 年度	供用開始年度	平成 35 年度 （令和 5 年度）	対応方針	継続
B / C	3.2 (6.5)	総費用	88 億円 (11 億円)	総便益	282 億円 (70 億円)
（※上段：全体事業 下段（ ）：残事業）					
事前評価時の委員会の意見及び当時の状況 ・継続することが妥当である。					
再評価時の進捗状況及び再評価時想定の 5 年後の進捗状況					
	計 画	進捗状況		5 年後の想定進捗状況	
全体事業費	73.0 億円	59.4 億円（ 81%）		69.1 億円（ 95%）	
用地取得面積	24,472m <sup>2</sup>	16,657m <sup>2</sup> （ 68%）		22,239m <sup>2</sup> （ 91%）	
供用面積（延長）	1,920m	1,270m（ 66%）		1,270m（ 66%）	
【再々評価（R2 年度）の概要】					
再評価実施年度 （基準年）	令和 2 年度	供用開始年度	令和 9 年度	対応方針	継続
B / C	3.5 (14.9)	総費用	119 億円 (15 億円)	総便益	412 億円 (219 億円)
（※上段：全体事業 下段（ ）：残事業）					
現在の進捗状況					
	計 画	進捗状況 （令和 2 年度末）			
全体事業費	80.6 億円	64 億円（ 79%）			
用地取得面積	24,472m <sup>2</sup>	17,954m <sup>2</sup> （ 73%）			
供用面積（延長）	1,920m	1,270m（ 66%）			
再評価後の経過及び処理状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度 再評価（継続が妥当である）</li> <li>・工事、用地交渉を継続実施</li> </ul>				